

F2支援戦闘機事故並びに、

日米共同統合演習についての県交渉報告

10月31日、県営名古屋空港で、隣接する三菱重工で修理・点検後、試験飛行を行おうとしたF2支援戦闘機が離陸に失敗し、墜落炎上し、パイロット二人が重傷を負い、滑走路は2時間に渡り閉鎖されるという事故が起こった。周知のように、名古屋空港の滑走路は、航空自衛隊小牧基地とも共有されている。中部新空港が新設されて以来、この滑走路は自衛隊関連の飛行機の使用割合は大きく伸びている。そして、この中には隣接する日本最大の軍需産業、三菱重工の名古屋航空宇宙システム製作所小牧南工場で修理・点検をする飛行機も含まれる。今回の事故は、その三菱で定期点検を行っていたF2が起こしたものである。離陸直後の事故で、パイロット2人の負傷ですんだものの、名古屋飛行場は名古屋市も含め豊山・小牧・春日井市などの市街地が隣接しており、一歩間違えば大惨事になっていた可能性もある。空港を管理する県との話し合いを継続してきた私たちは、急遽話し合いの場を持つことにした。また、11月5日から行われた日米共同統合演習についても質問項目に加えた。

また、11月28日には米海軍第7艦隊の空母「キティホーク」の艦載機FA18戦闘攻撃機が緊急着陸した。緊急着陸の原因を「韓国の空軍基地から厚木基地へ2機編成で飛行中、1機のコックピット内で着陸を促す警告灯がついたため」としているが、その際航空灯6個が破損し、滑走路は一時閉鎖される、ということがあった。度重なる、県営空港での事故・不祥事に対して、緊急の申し入れも行った。

11月20日、ネットのメンバーと高木県会議員・斉藤市会議員も同席し、県からは加藤航空対策課課長、名古屋航空事務所からは熊田さんらが同席した。

以下、質問内容は事故への対応と事故原因究明の進捗状況、再発防止への対応などの項目で行った。話し合いの概略を報告する。尚、やり取りの全文はネットのH

Pに掲載する。

質問：事故への対応

回答：空港事務所に対策本部を設置。三菱から事故の情報を得るとともに小牧基地に災害派遣要請を行い、同時に周辺自治体にも消防出動を行った。翌日、事務所に設置した対策本部に三菱重工から事故に対する情報をもらった。また、翌日、県庁で三菱重工の取締役へ、調査への全面的な協力、速やかかつ徹底的な原因の究明、調査結果の公表と周辺自治体への説明並びに再発防止を申し入れた。

防衛庁に対しても、徹底的な原因究明と再発防止、また、三菱重工への徹底的な指導、調査結果の逐次説明、再発防止に万全を期すよう申し入れた。

質問：事故原因のその後どのような進捗があったのか。

回答：11月15日に防衛省のほうから、「F2航空機の事故調査について」という発表があり「装置は正常に機能していたが、機体の姿勢変化を検知する、ピッチ・レイト・ジャイロ（機種上下方向）とロール・レイト・ジャイロ（横回転方向）の配線が逆に接続されていた。このため、離陸時にパイロットが行った機種上下の操舵にともなう動作を、飛行制御コンピュータが機体の上下変化として認識できなくなり、水平尾翼が異常な蛇角で上下したため落下炎上した。今後は配線がどうして逆になったかということの細部を詰めていく」という発表があった。

質問：県として今後F2支援戦闘機の滑走路使用を継続されるのか。

回答：今後も事故原因の究明経過と、再発防止などの安全確保の状況、地元の不安の解消などを勘案して対応する。

質問：三菱重工で、F2以外の航空機の整備・点検の実態を把握しているか。

回答：空港管理者という立場では把握する立場にない。

2) 日米行動共同統合演習について

質問：この演習を知っているか。防衛省あるいは小牧基地から連絡はあるか。

回答：演習が行われるということは承知していた。県の方には連絡はなかった。2市1町のほうには、10月11日の午前中に、小牧基地から電話で、演習によりC130輸送機の離発着が増えると、ただ米軍機の飛来はないと連絡があったと、電話連絡で聞いた。

質問：演習に関わるC130輸送機の滑走路使用状態は把握されているか。

回答：演習に関わるということでの滑走路の使用については把握していない。防省の方から利用届が出る。その中で、機種等は分かるが、任務とか訓練の内容とかは示されていない。終了後、利用の実績というのを提出してもらっているが、それも日時と機種ということになっているので内容などは把握していない。

事故原因は、配線の間違いということだが、なぜその間違いが起こったか、という根本原因は解明されていない。私たちが話し合いを行った翌日、防衛省近畿中部防衛局東海防衛支局は県に対し稼働中のF2支線戦闘機には異常はないし、確認の作業もしたので飛行を再開するとの説明を行っている。22日、県はこれを受けて、三菱に搬入されているものを除き、点検のための飛行を了承している。話し合いで県は、「全国他の地域で飛ぶことについて発言する立場にないが、名古屋空港については三菱での整備上どういう対応が取られているのか十分説明され、そのことで地元の十分な理解が得られてから」と回答をしている。三菱の整備上の問題が今日の時点で解決されたという報告はない。

そして、この件では、12月定例県議会で民主党の浜崎議員が「周辺地域住民の安全を最優先ということならば、今後の自衛隊機の事故およびトラブルの発生状況においては、**空港を使用禁止あるいは中止することも視野に入れた対応が必要**と思われる」とこれまでより一歩踏み込んだ質問をしている。これまで、私たちも三菱の航空機の利用実態などはあまり注目してこなかったが、ミサイル防衛の主力軍需産業である三菱での利用実態などを情報公開で明らかにするの必要を感じた。

また、日米合同演習に関して、地元自治体へわざわざ「米軍機の飛来はない」と連絡をしてきたこと、真の原因の分からないが、FA18戦闘機の緊急着陸などを考えると、06年5月に合意をされた「米軍再編」のロードマップに盛り込まれたでは、「自衛隊施設（米軍）利用の拡大に向け取り組む」ということが小牧基地も例外なくあてはまる、と見るべきだと思う。1月の岐阜行動、2月の小牧行動と共に、設置管理者である県に毅然とした態度を取るよう、今後も働きかけたい。

(山本)

名古屋空港へのFA18戦闘攻撃機緊急着陸についての真相究明と再発防止をもとめる要請書

愛知県知事 神田 真秋様

11月28日午後3時55分ごろ、県営名古屋空港に、米海軍FA18戦闘攻撃機が緊急着陸しました。その際航空等6個が破損し、滑走路は一時閉鎖されたとの報道がありました。幸い墜落などの惨事にはいたりませんでした。故障の内容次第では大きな事故につながるおそれは十分に考えられます。この10月31日にも三菱重工で修理点検をし、試験飛行を行ったF2支援戦闘機の事故があったばかりで、立て続けに起こったこのような軍用機の飛行機事故は、県民の財産である県営空港においてはあってはならないことです。米軍機が訓練などで事故を起こしたことは数多くあり、民家に墜落をして尊い命が奪われたこともあります。日米安保条約下で、米軍に航路など多くの優先権があたえられています。「対テロ戦争」のなかで常に臨戦態勢にある米軍が利用する日本の空は、空中戦こそないけれども戦場そのものです。

私たちは、県営名古屋空港と日本の空の安全のために、以下のことを要請します。

- 1 緊急着陸にいたった故障の原因を徹底的に究明し、あるいは究明させ、再発防止対策をとること。
- 2 名古屋空港へ緊急着陸した理由及びその経緯を明らかにすること。「最も近い」という理由ですが、それだけなのかどうか。小牧基地に隣接しているということはないのか、名古屋空港に緊急着陸を支持した経緯をどのようなものか。
- 3 航空灯を破壊しているが、それほどの緊急事態だったのか、管制、誘導はどのようになされたのか。当該機のパイロットは指示、誘導に従ったのか。
- 4 着陸時、他の民間機などが周辺や滑走路にいなかったのか。当該機は他の航空機の針路等を妨害することはなかったのか。
- 5 当該機が着陸後、すぐに小牧基地にうつったのはなぜか。空港管理者（愛知県）や警察などへの通報や、検証はなされたのか。
- 6 当該機が名古屋空港から離陸する場合、その安全判断は誰がどのようにするのか。どのような対策をとるのか。
- 7 上記について、情報をすべてあきらかにすること。日本の空の安全に関わることであり、たとえ米軍の軍事行動であっても、安保条約を理由に隠蔽しないこと。

